

◆ 4 番（**森田卓司**議員） おはようございます。

新風会**森田卓司**でございます。個人質問 2 日目、トップバッターを務めさせていただきます。しばらくの間、御清聴よろしくお願い申し上げます。

また、傍聴席の皆様、遠くから足を運んでいただきまして、まことにありがとうございます。

ことしも建部では、はっぼね桜まつりが行われ、桜の開花中、天候異変はありましたが、例年に比べまして、より多くの入園者が訪れられました。そんな中で、テレビの報道でインタビューを受けられた方が、どこから来られましたかという質問に対して、岡山市から来ましたと言われておりました。（笑声）私は、何げなく聞いたんですけど、建部も岡山市なのになあと感じて、3年ちょっとたつんですが、まだ建部は岡山市と認知をされていない方が大勢いらっしゃるのかなあと感じたところでございます。

そんな中、先般総理大臣がかわられまして、菅総理大臣が誕生されました。そして、江田参議院議長、二人の方どちらもルーツは建部地域でございます。新聞報道で北区建部町という報道がされまして、市民の方々も多くの方々が建部町は岡山市になったんだと認識をしていただいたんじゃないかと思っておるところでございます。（拍手）

ありがとうございます。原稿なしで言っているんで、ちょっと拍手で何を言ったらええか忘れてしまいましたが。（笑声）つけ加えさせていただきますと、野党に転落しましたが、自民党の逢沢代議士も御津地域の出身でございまして、御津・建部というのは非常に優秀な人材を生んでいるんだと、改めて感じたところでございます。

それでは、通告に従いまして個人質問に入らせていただきます。

まず、顕彰碑の中から質問をさせていただきますが、その顕彰碑をちょっと読ませていただきます。

建部町文化センターの南隣に、国道 484 号線沿いに吉岡隆二翁の顕彰碑があります。その碑文は、翁は早くから県内中部山間地帯を東西に結ぶ道路の重要性を説き、昭和 30 年よりその実現を目指し、私費を投じてみずから実地踏査を行い、さらには関係市町村を初め、国や県などへ熱心に働きかけを行った。翁の献身的な努力により、昭和 49 年、沿線市町村による岡山県中部縦貫道建設促進期成会が結成され、その活動とともに道路改良も行われ、平成 5 年 4 月、国道 484 号線として昇格しました。また、翁は県立福渡高等学校——元福渡実科女学校の誘致、福渡地区の電話開設、福渡簡易水道布設、酪農の振興、吉備高原開発の提唱、気象観測など、長年にわたり地域発展の先駆者として多大の貢献をされたと記されております。

吉岡隆二翁はもとより、多くの偉大な先人の方々の御努力により、建部地域は現在の発展を遂げてまいりました。この碑文の中より、現在の建部地域の課題に対して 2 項目について質問を行います。

まず、口蹄疫対策についてお伺いをいたします。

我が国において 10 年ぶりに発生した口蹄疫についてです。

北区建部地域では、岡山市農業振興ビジョンにも牛の絵で示されているとおり、また市民の皆様方にも有名な建部ヨーグルトが生産されるなど、酪農は農業生産額の中でも多くのウエートを占めております。建部町の酪農家で組織する建部酪農組合の総会が4月23日に開催され、4月20日及び21日に宮崎県で口蹄疫の疑似患畜が確認されたことが、岡山家畜保健衛生所から報告をされました。

発生当初は、新聞等の報道も国政での政治と金、普天間基地の問題が大きく取り上げられることが多く、口蹄疫についての報道は小さなものでありました。口蹄疫は、牛や豚といった偶蹄類の動物にかかるウイルスによる病気ですが、現在では治療方法はない恐ろしい病気であるとお聞きしております。こうしたことから、多くの畜産農家の方々からも口蹄疫に対する不安の声をお聞きします。

発生から2カ月余りたち、宮崎県西部のえびの市ではようやく終息が確認されましたが、県東部の川南町などではいまだ終息の気配がなく、きょうの新聞報道でもございましたが、新たに都城市でも確認されたとの報道がされています。農政ジャーナリストの中村康彦氏は、感染が確認された牛や豚と同じ畜舎で飼われていたら、無条件で殺処分。家畜伝染病予防法に基づく措置だから有無を言わせない。宮崎県の場合、5月31日現在、16万4,057頭に上り、さらに発生地から半径10キロメートル以内の家畜はすべてワクチンを接種した上で殺処分。この数およそ13万頭。牛や豚に罪はないのに哀れというほかに言葉はありません等々、新聞に投稿されています。丹精込めて育ててきた牛や豚を殺処分せざるを得ない畜産農家の方々には、かける言葉がないほど大変お気の毒であります。

6月6日の山陽新聞で、本松允之県畜産協会長は飼料価格も高どまりしており、赤字経営の肥育農家が少なくないと、口蹄疫の風評被害を警戒されていました。発生をすると、畜産農家にとっては死活問題です。あらゆる措置をとり、発生を抑えるべきだ、抑えなければならぬと強く要望をすると同時に、現在の岡山市の口蹄疫に対する方針をお伺いいたします。

ア、岡山市では口蹄疫に対し、これまでどのような対応をされてきましたか、お示しく下さい。

イ、岡山市では口蹄疫の発生防止のために、今後どのような措置を講じるか、方針があればお示しく下さい。

ウ、ないことを願うばかりですが、万一県内等の近隣で口蹄疫が発生した場合、初期の迅速な対応が重要であると考えます。岡山市では、迅速な対応ができるよう体制整備はできているかどうかお示しく下さい。

エ、県また近隣市町村との連携は、しっかりとできているのかお聞かせください。

次に、福渡高等学校の跡地の活用についてお伺いいたします。

昨年6月定例市議会に引き続いて、福渡高等学校の跡地の活用についてお伺いいたします。

先般、地元の方々から跡地活用についての要望がなされましたが、同校OBの私自身の

強い思い入れと地域の活性化を願い、日増しに憂いを抱く建部地域の住民の声としてお聞きいただきたいと思います。ちなみに、私は福渡高校のOBですが、菅総理のおじさんに当たる方が私の高校のときに3年間担任をしていただきました。もう亡くなられましたが、数学の先生で非常に私は数学が得意になっております。(笑声)

福渡高等学校が閉校となって、既に3年が経過し、人が住まない家は傷みが早いとは言いますが、築40年を超える建物は痛々しく、使用しないグラウンドは雑草が生い茂る状態となっております。

昨年6月の私の個人質問に対しまして、新市建設計画推進担当局長の答弁の中で、「施設所有者であります岡山県教育委員会とは、これまで跡地処分に関する基本方針及び譲渡の条件等について協議してまいりました。その中で、譲渡の条件につきましては、地元自治体において地域振興を図る観点から文教施設、社会福祉施設等の用途で公共、それから公益事業として活用する前提であれば、土地は旧建部町からの寄附分がありますから、その寄附分は譲与、無償ということであります。その他の土地は減額譲渡、建物はすべて譲与とし、最終的には県としての方針の確定は具体的な提案が示されたときに協議して決めるということになっております」との答弁でございました。

その後、施設所有者である岡山県教育委員会とは積極的な協議がなされているものとは思いますが、しかし、その後事業の進捗状況が見えてまいりません。旧建部町時代からの地域づくりに資する施設誘致へ向けての取り組みの経緯、現在の施設の状況、新市基本計画事業としての位置づけ等を考えると、早急な事業の展開が必要と考えます。

そこでお尋ねいたします。

新市基本計画に位置づけられている本事業に対して、今後の考え方、方針をお示しくください。

次に、区のあり方と地域の特色についてお伺いいたします。

本会議初日に市長から、高齢者の方の安全・安心につながる活動などを積極的に行い、福祉の向上を目指す学区・地区をモデル地区として選定し、支援すると所信表明がされました。高齢化が進む建部・御津地域にとりましては、特色ある地域づくりとして非常に関心のある施策であると感じます。

そこでお尋ねいたします。

1、具体的にはどのような活動、取り組みを予定しているのかお示してください。

2、既に多くの応募があるとのことですが、モデル地区の選定に当たっては何力所程度を予定されているのでしょうか。また、区ごとに割り当てる予定でしょうか、お示しくください。

3、安全・安心ネットワークの活動を促進するためとのことですが、事業費はどのような措置になるのかお示してください。

次に、昨年11月定例会市議会の新風会の代表質問で、「御津、建部の合併特例区の設置期間が満了したとき、それぞれの支所はどのようになるのでしょうか。他の地域センターと

同様の扱いになり、はるばる北区役所に出かけていくことになれば、市民サービスの著しい低下につながり、新たな区割りの議論に発展しかねません」との質問に対し、行政改革担当局長は「合併特例区終了後の支所につきましては、おのおのの地域の特色を生かしながら、合併効果の発現を高めるといった基本的考え方のもとに新市建設計画、新市基本計画を実施しております、その計画実現を促進する組織体制となるよう配慮する必要があると考えております」との答弁をされています。

現在、合併特例区が終了した御津支所では、一部の機能が区役所に移されましたが、おむね合併時の支所としての機能が活かされているように感じ、窓口業務に関しては大きなサービスの低下もなく安心をしているところでございます。御津、建部の市民の方々は、北区という名称は非常にすんなりと受け入れられております。また、岡山市の中心部の方々は、区役所の位置は問題ないが、北区という名称に違和感を感じている方も多いのも事実だと感じております。御津地域の新市建設計画が終了するのが5年後、建部地域は7年後、広い北区の住民サービス、地域づくりを考えると、新風会の代表質問でも指摘しましたように、市民サービスの著しい低下につながり、新たな区割りの議論に発展しかねません。

そこでお尋ねいたします。

1、現段階で5年後、7年後以降の御津・建部支所のあり方について、どのようなお考えをお持ちかお示してください。

2、岡山市の面積が789.91平方キロメートル、御津・建部地域が200平方キロメートルで、岡山市の4分の1を占めています。面積だけで言えば4分の1、25%です。すごく広いが、人口は少ないです。災害時における水防・防災対策は、現在の人員体制で地域住民の安全・安心を守れるとお考えでしょうか。御所見をお示してください。

次に、これは要望として発言をさせていただきますが、岡山市では各地域ごとに歴史・文化・伝統があり、それぞれを現在に受け継がれていますが、建部、瀬戸においても合併前に行われていた事業が合併特例区事業として実施されております。両合併特例区は、平成24年1月で設置期間終了となりますが、これらの事業について合併特例区協議会や地元と十分な協議を行っていただくように要望しておきます。

最後の項、岡山市水路浚渫等交付金についてお伺いいたします。

岡山市水路浚渫等交付金要綱によると、その趣旨は、岡山市が管理する農業用水路の円滑な通水を確保するため、予算の範囲内において岡山市水路浚渫等交付金を交付するものとし、交付金の交付の対象となる事業は水路しゅんせつ、藻刈り及び清掃等に関する事業とすると決められており、農業土木水利組合、用水組合、農家組合、町内会、そのほか地元関係団体が対象事業者とされています。平成19年度、平成20年度の決算資料によりますと、合併4地区ではこの制度での交付金が交付されていません。

そこでお尋ねいたします。

合併4地区も制度の統一をして、この事業での交付金を交付するよう検討すべきだと考

えますが、御所見をお示してください。

これで質問を終わります。

あす御津大野地区の蛸祭りがございますので、議員の皆様、市民の皆様、地元の方が来られるのを心待ちにされておりますので、私がお招きするわけじゃないですけど、どうぞ行ってあげてください。

ありがとうございました。（拍手）

◎高谷茂男市長　皆さんおはようございます。本日もよろしく申し上げます。

それでは、森田議員の口蹄疫対策についての御質問にお答えをいたします。

口蹄疫の対策につきましては、家畜伝染病予防法により県がその中心的役割を担うこととされておりますが、全国的な拡大が懸念される中で、本市といたしましても適時に適切な対応を行う必要があると考えております。このため、県からの情報をもとにして、畜産農家からの問い合わせ等に応じるとともに、市内すべての牛、豚等の畜産農家に対し、家畜の健康状態や飼養頭数、予防対策の状況などについて緊急調査を行い、予防対策が不十分な畜産農家に対しましては、しっかりと消毒等の措置を講じるよう注意喚起を行ってきております。

また、万が一本市や本市の周辺において口蹄疫が発生した場合に備え、本市独自の岡山市特定家畜伝染病対策本部設置要綱を定め、私を本部長とする対策本部を設置して、必要な対策を迅速に行うこととしております。引き続き、口蹄疫の感染状況を注視するとともに、県との緊密な連携のもとに、しっかりと対応してまいりたいと考えております。

その他につきましては、各担当からお答えをいたします。

◎水野博宣行政改革担当局長　5年後、7年後以降の御津・建部支所のあり方についての御質問にお答えいたします。

御津・建部支所につきましては、おのおのの地域の特色を生かしながら、合併効果の発現を高め、市としての一体性を促進するという基本的考え方のもとに、新市建設計画、新市基本計画の着実な実行とその成果を維持できる組織体制となるよう配慮する必要があると考えております。

以上でございます。

◎甲斐充経済局長　岡山市水路浚渫交付金制度についての御質問にお答えいたします。

議員御指摘のとおり、合併4地区では水路浚渫交付金は交付されておられません。本交付金は、幹線水路を除く農業用・用排水路を対象とし、またほかの補助制度との重複がないことなどが要件となっておりますが、合併地区は幹線、支線水路の仕分けがないため交付されておられません。そのため、まず幹線、支線水路の調査、整理や水路の現況把握等を行いつつ検討を進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎難波康廣消防局長 災害時における水防・防災対策は、現在の人員体制で地域住民の安全・安心を守れるかとお尋ねにお答えします。

御津・建部地域は、広大な丘陵地と河川を有することから、その水防・防災対策につきましては地域の各種団体を初め、区役所、各支所との連携が非常に重要な地域であります。また、今年度からは防災部門と消防部門を一元化し、24時間危機管理体制を確立しており、迅速な初動態勢が可能となり、大規模な災害が発生した場合にも本庁からの応援、消防職団員を含めた全職員だけでなく、防災に関する協定を交わしている民間企業も含め、一丸となって地域住民の安全・安心を確保するよう努めてまいります。

以上でございます。

◎田淵薫安全・安心ネットワーク担当局長 学区・地区のモデル地区の御質問に一括して御答弁いたします。

学区・地区の安全・安心ネットワーク活動の保健福祉分野の支援としてのモデル事業内容としては、高齢者世帯などの見守り、声かけなど、地域で支え合う活動の推進、ひきこもり対策や介護予防のための健康づくりなどを行う交流の場——俗に言うサロンでございますが——の創設や運営などをベースとして、地域の状況に応じてモデル地区の皆様と協議をしながら事業を進めることとしております。その中で、見守り活動などに使用するマップづくりなども提案していきたいと考えており、社会福祉協議会、地域包括支援センターとともに、地域に入って活動の支援を行ってまいります。

また、モデル地区の選定は当初各福祉事務所管内1学区、計6学区で予定しておりましたが、全ネットワークに対して募集を行ったところ、16の学区・地区から応募があり、いずれも活動の意欲が高いため、応募のあった全ネットワークをモデル地区として選定したところでございます。内訳といたしましては、北区6学区・地区、中区2学区、東区4学区、南区4学区となっております。

事業費につきましては、会議費やサロン開設のための経費を考えておりますが、今後モデル地区で実施される事業によっては、それぞれの担当部局での経費対応も検討していくこととしております。

以上でございます。

◎大月秀樹企画局新市建設計画推進担当局長 福渡高等学校跡地活用の今後の考え方、方針についてお答えをさせていただきます。

福渡高校跡地活用につきましては、旧建部町時代から地域づくりに資する施設誘致に向けて取り組まれ、合併時に取り交わした新市基本計画にも位置づけられた主要事業でございます。先般、建部町合併特例区協議会、そして同町区長協議会から岡山県教育長、そし

て岡山市長あてに建部地域の市民すべての強い思いとして、福渡高校跡地の早期活用を求める御要望をいただいたところでございます。

福渡高校は、平成19年3月に廃校となり既に3年が経過しており、その間施設所有者でございませぬ岡山県教育委員会と跡地処分に関する基本方針及び譲渡の条件等について協議を行ってきたところでございますが、今回地元の皆さんから寄せられました声を改めてしっかりと受けとめ、今後とも岡山県教育委員会と協議を行いながら、地域の特性を生かした拠点づくりに資する施設誘致に向けて、しっかりと取り組みを進めてまいりたいと考えてございませぬ。

以上でございませぬ。

〔4番 **森田卓司**議員登壇〕

◆4番（**森田卓司**議員） 市長からの口蹄疫に対する答弁、ありがとうございました。

市長から答弁をいただいたのに再質問するのも何なんです、経済局長、他県の情報収集という、遠く離れているところで発生している部分だから、市長の答弁の中で、情報収集はされるということですが、他県の情報収集も含まれているのかどうかお聞かせください。

質問はそれだけですが、要望だけで上がったらいけんということで質問をさせていただきました。

それから、福渡高等学校です。地域の方々、本当に時がたつにつれていろんな方々から、最初は福渡地域の方々だけ、それからOBの方々だけが本当に強い要望をされておって、あの方もそれはもう寂しいからということだったんですが、だんだんとそういう心配をする声が入ってまいりまして、本当に早く手を打っていただかないと、スピード感を持ってやっていただかないと地域の不満が爆発するかもわかりませぬ。だから、今、大月局長より御答弁いただきましたが、本当にスピード感を持ってぜひともやっていただきたいと思ひます。これは要望にさせていただきます。

それから、順序がばらばらになりますが、特色ある地域づくりについての安全・安心ネットワークの活動、これは予算措置もされるということなんです、安全・安心ネットワークでいつも私この建部のことしか、この安全・安心ネットワークでは話はできないんです、いつも言われておるのが予算、僕は金をくれ、金をくれと言うとわけじゃないんですけれど、予算もないのに何ができるんじやろうかというような意見がたくさんあります。

前にも質問をさせていただいたことがあると思ひますが、安全・安心ネットワーク、非常に市長も重要に考えておられる組織であり、それから建部地域でも安全・安心ネットワークがやっと名前も定着して、組織も定着してきたところだと思ひますが、いざ活動をやるときに、当初幾らかの活動資金は出ていると思ひますが、その後金がなげにやできんと言うちゃいけんのですけれど、そういう人じゃないんですけれど、やはり何かをするに

当たっても、やはり若干の活動費は要るんじゃないかと思いますが、もしよかったら局長、お答えをいただければと思います。

それから、建部地域の安全・安心ということで御答弁いただきました。本当に広い地域ですので、ここから建部の一番奥まで行ったら、市長よく言われますけど、随分距離がありまして1時間では行けないような地域がございます。1時間半ぐらいかかるところがあります。そういう地域の山間部、それから旭川沿いの浸水、そういうおそれがあるところがいっぱい建部でも御津でもございます。地域の方がハード事業で砂防ダムをつくったり、治山ダムをつくったりしてやっているんですが、それだけでは追いつかないような地域がたくさんございます。ソフトというか、人員体制で何とかカバーできるような方法を考えていただいております。ぜひともそれが実践できるように、この前も水防訓練に私も東区まで行かせていただきましたが、そういう訓練の中から地域の方が安全・安心に暮らせるような防災体制をつくっていただきたいと、これも要望にさせていただきますが、よろしくお願ひしたいと思います。

以上で質問を終わります。

ありがとうございました。(拍手)

◎甲斐充経済局長 口蹄疫対策について再質問をいただいております。

口蹄疫の問題につきましては、岡山県と連携しながら対応に努めておるところです。連日、県を通じ、宮崎県における口蹄疫の疑似患畜の発生頭数、それから他県及び国における対応状況等についての情報を入手し、これらを各区の関係課や支所へも伝え、広く情報の共有を図っているところです。口蹄疫の猛威は、今なお続いておりますので、本市といたしましては引き続き情報収集に努めてまいりたいと考えております。

以上です。

◎田淵薫安全・安心ネットワーク担当局長 安全・安心ネットワークにつきましては、もちろんみずからできることはみずからでという自助、共助を進めていただきたいという思いがある中で、しかしながら必要な経費もかかるということで、安全・安心ネットワークのほうで用意しております経費といたしましては、一般的な会議費とかサロンの運営費、こういうものを今モデル地区については検討しております。

また、安全・安心ネットワークにかかわる地域のさまざまな事業につきましては、既存の市で行っている各部局での事業もちろん入るわけでございますが、例えば健康づくりの事業であれば、安全・安心ネットワークがかじ取りをしながら、その担当部局の応援を求めていくということで、安全・安心ネットワークそのものの予算外の市全体の事業経費、これも組み合わせながら地域での活動を支援していきたいというふうな考えで今進めておるところでございます。

以上です。